

# 伝統工芸品等のデザイン・商品化に関する研究

— 漆製品の価値向上研究 (第 2 報) —

## Study of the traditional works which adopted design awareness

— Study to increase value of the Tsugaru-nuri product (Part 2) —

鳴海 藍、小松 勇、小野 大輔

本研究は、津軽塗業界の課題である「年間販売額の減少」の要因のひとつである住空間の変化に着目し、漆器の価値向上を目的として行っているものである。平成 27 年度から 28 年度の「現代生活空間における漆の配色に関する研究」では、県内家屋の配色や空間を構成する形状を調査し、視覚化した資料（以下、配色データ）にまとめ、製品化アイテム構想を作成した。また、配色データを活用し、配色見本となる漆塗手板を作成した。本報では、平成 29 年度に実施した「配色データ活用ブック」の作成について述べる。

県内のモノづくり中小企業・個人事業主の多くは受注生産を主としており、新規顧客を獲得するための新商品開発はなかなか行われていないという現状がある。これを解決するには配色データが有効であると考え、データの活用促進を図ると共に、対象企業が「現代空間に適した配色を活用した商品開発」について学び、新商品の開発する上での一助とするため、「配色データブック」を作成することとした。作成にあたり、以下のコンセプトを設定してラフデザインを行った。

- ① 写真やイラストを活用し、よりわかりやすいデータの視覚化を行うこと
- ② 商品を作るステップを図案化し、商品企画から販売までの一連の流れを想起させること

ラフデザインを元にデザイン会社にブック制作の委託を行ったところ、こちらの意図を適切に伝えることができ、わかりやすいデータの視覚化に成功した。また、配色データを活用するイメージを想起させ、対象企業が「自分ごと」として捉えられるような内容とすることができた。

第 3 報では、配色データの普及に向けた取り組みについて報告する。

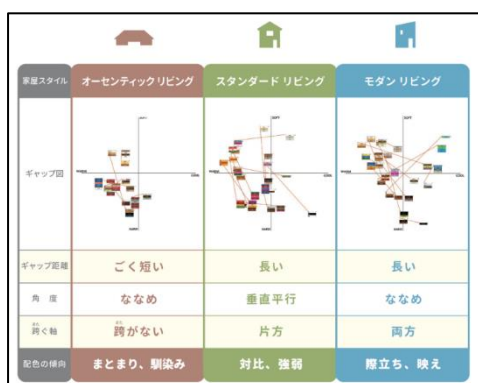


図 1 『家屋の 3 分類』のイメージ



図 2 商品企画～販売までのイメージ